

「初修外国語」の受講手続きについて

大学では、みなさん自身が学びたいことや身につけたい知識や能力に応じて、自分で授業科目を選んで受講します。ただし、中には、「必修科目」といって卒業するために必ず履修しなければならない授業科目もあります。

島根大学には「初修外国語」という「選択必修科目」があります。「初修外国語」とは、初めて履修する英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語の4ヶ国語）のことです。4つある初修外国語のうち、どれか1つの言語を選びます。なるべく第1希望の言語を学べるよう工夫しますが、希望が集中した場合は、第2希望以降の言語になることもあります。

初修外国語の希望調査を、4月2日(木)の TOEIC Bridge IP テスト時に行います。

TOEIC Bridge IP テストの際に配布される初修外国語Ⅰ希望調査票（マークシート）に、その場で記載し、提出していただきます。4/2までに希望順位を決めておいてください。

裏面に、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語のそれぞれの授業内容紹介を掲載します。希望順位を決める際の参考にしてください。

希望調査票回収後、みなさんの希望を集計して、調整を行い、最初の授業までに学内掲示により発表します。最初の授業までに、どの外国語クラスに配属されたのか、チェックしてください。

【4/2 に配布する希望調査票イメージ図】

「初修外国語Ⅰ」希望調査票

氏名：

「各外国語の紹介」を読んで、下のマークシートに第4希望までマークしてください。

1 1 5 0 0 0 1

00 0 0 ● ● ● 0

1● ● 0 0 0 0 ●

20 0 0 0 0 0 0

30 0 0 0 0 0 0

40 0 0 0 0 0 0

50 0 ● 0 0 0 0

60 0 0 0 0 0 0

70 0 0 0 0 0 0

80 0 0 0 0 0 0

90 0 0 0 0 0 0

(1) ドイツ語

(2) フランス語

(3) 中国語

(4) 韓国・朝鮮語

第1希望 (1) (2) (3) (4)
0 0 0 0

第2希望 (1) (2) (3) (4)
0 0 0 0

第3希望 (1) (2) (3) (4)
0 0 0 0

第4希望 (1) (2) (3) (4)
0 0 0 0

この部分は、既に記入してあります。

当日説明をいたします。

【問い合わせ先】

島根大学教育・学生支援機構外国語教育センター事務
(教育学部棟1階外国語ワークステーション)

TEL：0852-32-9837

E-mail：epd-gaikoku@office.shimane-u.ac.jp

各外国語の紹介

【ドイツ語】

ドイツ語は1990年に再統一されたドイツで話されている言葉です。他に近隣のオーストリア、スイス、リヒテンシュタインでも公用語(あるいは公用語の一つ)とされています。また、ルクセンブルク、ベルギー、フランス、デンマーク、イタリアなどでも地域によってドイツ語が話されていて、一般に公用語に準じた言葉となっています。

ドイツ(語)の自然科学、医学、工学の分野における業績には輝かしいものがあり、日本の近代化のお手本ともなりました。しかし、現在のドイツ語はむしろ、ヨーロッパにおける政治・経済の面で重要な位置を占めていると言えるべきでしょう。もちろん、ドイツ語の背景にある文化的側面—音楽、哲学、文学など—に興味があるのでドイツ語を学びたいという人もいらっしゃると思います。ドイツという国は、他にも環境政策が進んだ国、ベンツなどの車の国、あるいはサッカーが強い国—ブンデスリーガではたくさんの日本人選手も活躍しています—などのイメージがありますね。

さあ、ドイツ語の扉を開いてみてください。一見堅い感じのするドイツ語ですが、その向こう側には伝統あるヨーロッパ文化の広がりがあり、ヨーロッパの人々がいます。さらに詳しいドイツ語のしくみやドイツ文化の様子については、授業でのお楽しみということにしましょう。

【フランス語】

フランス語の魅力とは何でしょうか。やはり、音の美しさと、ゆったりとしたリズムが快い言葉、と答えるでしょう。その美しい音を可能にするために、単語一つの中で、単語のグループ内で、そして文の単位で、あらゆる工夫が凝らされている言葉です。そこにはもちろん、明確な規則性があり、そのルールにしたがって発音していけば(もちろん美しいフランス語を話すフランス人のようにはいきませんが)、われわれ日本人にも、その美しい音を習得することが可能です。

また、文法上の様々な点においても、明確な規則性の上に成り立っていることが実感できると思います。現在のフランス語は、ほぼ17世紀に確立されたのですが、その規則がほとんどそのまま残り、今に至っています。曖昧さを残さぬよう工夫された、かなり人工的な言葉と言えるでしょう。

音を大切にすることが言葉ですが、フランス語が繰り広げる世界は、人間の喜怒哀楽と同時に、理性を述べ伝えるにあたって、不足があるはずがありません。優しく語りかける、また、論理を駆使して相手を説得する。フランス語はそのいずれも得意な言葉です。

みなさんの口から出てくる美しいフランス語を聞くことが我々スタッフの大きな楽しみです。華麗なフランス語を身につけるために、一緒に学習しましょう。

【中国語】

21世紀に入ってから中国は著しい経済成長を続け、その国際的影響力は日増しに大きくなっています。世界人口の1/5をしめる中国人が公用語として用いる中国語は今後、その重要性を増していくことでしょう。

授業で習う中国語は「漢語」「普通話」ともいい、北京語をもとにした標準語です。まず中国語の発音には日本語にないメロディー感たっぷりの「声調変化」があります。授業ではその特徴を詳しく説明し、コツを押さえた継続的訓練を行いながらゆっくりしたペースで発音を身につけていきます。

すべて漢字で表記される中国語ですが、現代以降、「簡体字」という省略字形を採用しています。日本語のものとは比べて、書き方や意味や使い方が違ったりする場合がありますので、「簡体字」も授業でしっかり勉強していきます。また、中国語では単語がそのまま文を構成しますので、語順が文の意味を決める上で極めて重要です。したがって、語と語の関係や修飾構造の学習が中国語の文法の把握にとってきわめて肝心です。

近代以降、中国語は、日本語から社会科学分野の語彙を多く借用してきました。今でもよく使われている「科学」、「銀行」、「警察」、「講演」、「電話」などがその類です。これら日本人によって創造された漢語語彙から中国語を認識し、漢字の魅力を感じると味わうことも、中国語学習の楽しみの一つでしょう。

中国人と交流したい、中国の文化・習慣を知りたいなど、興味があれば是非受講してみてください。日本語と異なりつつも共通点多き中国語に触れることによって、きっと新たな発見や人生の成長が期待できるでしょう。

【韓国・朝鮮語】

皆さんは韓国・韓国語といえば何を連想しますか。キムチ、ビビンバ、焼き肉などの食べ物、カラ、ビックバンなどの韓国芸人やドラマ、記号のような文字(ハングル)を持つ国などが思い浮かぶことでしょう。韓国と日本の両国は古くから深い交流があり、日韓ワールドカップや韓流ブームをきっかけに、さらにその度合いを強めています。そして今や国内旅行並みの安さで異文化を満喫でき、日本人が最も多く出かける外国は韓国です。一方、日本を最も多く訪れる外国人も韓国人です。町の看板にハングルが増えたのはそのためでしょう。

現在韓国と日本を1日に往来する人の数はナント1万人以上！韓国・朝鮮語は日本人にとって身近な外国語であり、ビジネスなどでも実際に使う頻度が高い外国語なのです。それ以外にも韓国・朝鮮語を習うメリットはたくさんあります。たとえば、

① 文法構造が似ており日本人にとって最も学びやすい言葉の一つです。語彙レベルでも教科書は「キョグァソ」、都市は「トシ」など似ていたり、そっくりな発音の単語がいっぱい！

② ドラマや歌など楽しみながら勉強を続けられる文化コンテンツがいっぱいあります。

③ 交流協定校への長期留学だけでなく、夏期研修制度(単位認定)もあります。また島根大学にも韓国からの留学生が大勢来ています。

最後に○や縦棒、横棒などの並ぶ幾何学的なハングル文字は発音表記にもなっているので、1カ月も勉強すれば不思議なことに記号が文字に見えてきますよ！